

令和6年度 第2回学校運営協議会 議事概要

1 日 時	令和6年11月12日(火)	開会	13時30分	閉会	15時00分
2 場 所	岡山県立玉野高等学校 会議室				
3 出席者	委員 恵谷 栄一 委員 大川 佳郎 委員 栗林 太一郎 委員 二宮 崇	委員 東 り え 委員 藤 原 直之 委員 山 根 一人 委員 山 本 和音 委員 藤 原 修 (校長)			(敬称略)
	事務局 教 頭 藤 田 美絵 事務部長 佐 藤 和志 主幹教諭 寺 岡 俊之 指導教諭 川 俣 真砂美 指導教諭 竜 門 巧 指導教諭 岡 本 崇志				

4 議事の概要

開会

(1) 説明

- ・事務局担当者から、学校経営目標の達成状況（中間期）について説明した。
- ・主幹教諭（総探企画推進室長兼任）から、令和6年度入学生の「総合的な探究の時間」における、「Unit 探究」の取組についての説明及び進捗状況等を説明した。
- ・校長から、玉野高校のスクールポリシーの改定案について説明した。

(2) 意見交換

①総合的な探究の時間「Unit 探究」の取組について

- 素晴らしい取組だと感じるが、生徒がどう感じて取組をとらえていくかが重要。各 Unit に対して、将来像や学ぶ目的をしっかりと理解すれば意義ある一年の学びになる。目的をしっかりと持たせることで、自身の武器や自信につながり、高校卒業後の人生にも生きてくるはずだ。
- 大変ユニークな学習方法で、生徒と触れ合う貴重な機会だった。講師自身が取組の目標をもっと理解し講師の役割モデルを取れるような説明や準備、材料が事前にもう少し欲しかった。わずかな時間であり、生徒たちは何か学びとして受け取っていたのか不安だが、とても楽しかった。

②その他の取組に対して

- 先生方の熱意と想いが生徒に伝わり切っていないことへのもどかしさを感じる。自分の力を主体的に発揮する場所が地域である取組が、玉野高校の授業や総探の時間等で反映されている。その中で、「そこまで地域が成熟しているか」と思うことがある。地域も変わらざるを得ない状況を目前に、玉野高校や市内高校の取組がいかに地域と一緒に密接した形で、生徒と学び合えるかをコーディネートしていくのは、地域の力がまだまだ不足しているところで、共に頑張っていきたい。
- 玉野高校が持続可能な集団となり、常にいきいきとした人が循環する集団であってほしい。玉野市外からも入学希望の生徒を増やすため、魅力をどこに付けるかをさらに追及しなければならない。
- 中学校でも「キャリア教育」「夢育」の視点で、地域との関わりの中で自分の将来を考える取組をしている。玉野高校の取組につながるよう、中高のつながりをさらに深く活かし発展させたい。
- 保護者の立場から考えると、今どき目標がある子どもが少ないと感じる。今どきの子どもは SNS でしっかり情報収集することは得意だが、それをまとめて何かを伝えとか発表することは苦手だろうと感じる。玉野高校が授業に加えて様々な講座をやっていることが、社会に出た時にとても役立つと思うし必要なことでありがたいことだと思う。
- 採用する中で思うことは、本をよく読んで国語力がある人は、人間関係でも仕事でも、読み解く力と理解力が非常に大きい。小中高では文章を読んでおくか読まないかで、仕事を与えた時の間違いが極端に変わる。読書量や文章を読み込む速さも変わる。「出会い」「気づき」がすべてだと思う。

(3) 協議

協議の結果、出席委員全員の賛同をもって、「学校経営目標の達成状況（中間期）」、「総合的な探究の時間における1年次生の取組」、「スクールポリシー改定案」について、いずれも承認された。

閉会